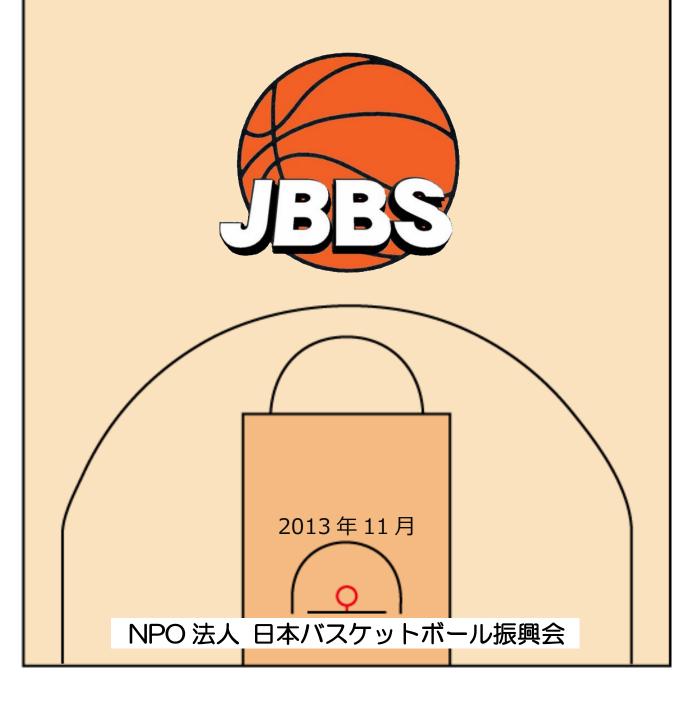
バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:60



女子アジア選手権 優 勝

おめでとうございます。

NPO 法人 日本バスケットボール振興会 会員一同



写真: JBA 提供



瞬発力が、加速する。

軽さとグリップ性を高めた新ソールで、よりクイックに。

WAVE REAL BB3

ウエーブ リアル BB3 13KL-24009 ¥13,650(本体 ¥13,000) サイズ:23.0~30.0、31.0、32.0cm ペトナム製

※記載価格は、消費税込みのメーカー希望小売価格です。 ()内は消費税抜き本体価格です。



目 次

\circ	女子日本代表アジア選手権優勝・・・・・・・・・・・・ 3 第17回FIBA女子世界選手権出場権獲得
\bigcirc	秋の講演会・交流会開催・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 0 NBL専務理事/COO 山谷拓志氏
\bigcirc	2020 年東京オリンピックの出枠は・・・・・・・・・・・・・ 1 7 ——男子日本代表の奮起を望む——
\bigcirc	日本における女性審判の歴史 ・・・・・・・・・・歴史部・・・19
\bigcirc	世田谷区中学生クリニック報告・・・・・・・・普及部・総務部・・・26
\bigcirc	韓国TV局の取材に全面協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
0	人物抄 関口荘次さん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 3
0	会員だより バスケットボール湘南だより (その4)・・・・・・ 中瀬達雄・・・35 京都バスケットボール100年・・・・・・・・ 藤野英雄・・・37 日本バスケットの国際的レベルアップを・・・・・・ 山本哲也・・・39
\bigcirc	日笠さんおめでとうございます ・・・・・・・・・・・・41
\bigcirc	12月21日はバスケットボールの日 ・・・・・・・・・・42 バスケットボールの誕生日をお祝いしましょう
\bigcirc	Wリーグ 11月8日開幕・・・・・・・・・・・・・・・44
\bigcirc	事務局だより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 2
\bigcirc	計報・追悼文 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 3
\circ	プラザ こぼればなし ・・・・・・・・・・・・・・・・55

女子日本代表アジア選手権優勝

第17回FIBA女子世界選手権出場権獲得

[編集部]

10月27日からタイ・バンコクで開催された第25回FIBA女子アジア選手権大会 兼世界選手権大会予選で、女子日本代表は果敢に戦って無敗という完全優勝でアジアを制 した。女子日本代表がアジア選手権で優勝したのは実に43年ぶり2回目のことで、日本 のバスケットボール界にとって久しぶりに明るい話題となった。

これで女子日本代表は、来年トルコで開催される第17回FIBA女子世界選手権大会 出場権をアジア第1位で獲得、2年後に開催される第26回アジア選手権大会兼 2016年 リオデジャネイロ・オリンピック予選に対しても明るい見通しとなった。

アジアの頂点に至る女子日本代表は、5月から7次に亘る強化合宿や海外遠征などで徐々に力をつけ、故障者もなく予選ラウンドの対韓国戦で延長まで闘ったものの、それ以外は全て快勝といってよいほどの素晴らしい成績で優勝した。内海ヘッドコーチをはじめとするチームスタッフ、戦い抜いた選手たちに対して心から称賛の拍手を贈りたい。

主なチームスタッフ

役職	氏 名	所 属
チームリーダー	高橋 雅弘	日本協会
ヘッドコーチ	内海 知秀	日本協会
コーチ	梅嵜 英毅	山梨学院大学
アドバイザーコーチ	ハーブ・ブラウン	日本協会

選手

			身長	体重	年齢	
NO	選手名	Р	c m	kg	歳	所 属
				ı		<u> </u>
4	大庭 久美子	SG	169	59	25	デンソーアイリス
5	元山 夏菜	SF	182	67	23	シャンソン化粧品シャンソンVマジック
6	間宮 佑圭	С	184	73	23	JX-ENEOSサンフラワーズ
7	櫻木 千華	SF	180	66	22	三菱電機コアラーズ
8	宮元 美智子	SG	176	58	27	三菱電機コアラーズ
9	久手堅 笑美	ΡG	165	61	29	トヨタ自動車アンテロープス
10	渡嘉敷 来夢	ΡF	192	80	22	JX-ENEOSサンフラワーズ
11	藤原 有沙	SG	175	65	25	デンソーアイリス
12	吉田 亜沙美	ΡG	165	61	25	JX-ENEOSサンフラワーズ
13	大神 雄子	ΡG	170	61	30	JX-ENEOSサンフラワーズ
14	宮澤 夕貴	ΡF	182	70	20	JX-ENEOSサンフラワーズ
15	王 新朝喜	С	189	85	25	三菱電機コアラーズ
_	平 均		177	67	25	

^{*}年齢所属は2013年9月11日現在

この大会の競技方式は、参加国のランキングによってレベル I グループとレベル II グループに分けて総当たりのリーグ戦を行い、レベル I においては上位 4 チームによるトーナメント戦で順位を決定するもの。日本が属するレベル I グループの参加国は下記の通り。レベル I グループ

日本、中国、韓国、チャイニーズ・タイペイ、インド、カザフスタン

大会の結果、レベル I グループの上位 3 チームに対して、2014 年にトルコで開催される第 1 7 回 F I B A 女子世界選手権大会への出場権が与えられる。

<レベル I グループ・予選ラウンドの結果>

順位		日本	中国	韓国	チャイニース゛ タイへ゜イ	インド	カザフスタン
1 位	日 本		O 62	O 78	O 69	O 81	O 94
2 位	中 国	× 55		× 70	O 85	O 97	O 103
3 位	韓国	× 71	O 72		× 58	O 109	O 92
4 位	チャイニース゛・タイへ゜イ	× 57	× 63	O 63		O 85	O 87
5 位	インド	× 40	× 36	× 62	× 57		O 65
6 位	カザフスタン	× 59	× 62	× 56	× 57	× 62	

注1: 中国、韓国は僅少の得失点差で順位決定

注2: カザフスタンは入替え戦でタイに敗北し、レベルⅡグループへ降格

10月27日 カザフスタン戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本	20	38	16	20	94
カザフスタン	16	15	11	17	59

予選ラウンド第1戦、日本の平均身長 177.4 c mに対して、カザフスタンは 186.3 c m と 9 c mのハンデ、日本はこの身長差を跳ね返すディフェンスによって第2ピリオドに主導権をにぎり、全員出場で快勝した。

日本は開始早々先制点を挙げ、その後も連続得点でリードするが、第1ピリオド残り3分近くになってカザフスタンに一時13対16と逆転される。しかし日本は3Pシュートを決めるなどしてすぐに逆転する。第2ピリオドに入ると日本は5連続得点で一気に点差を広げ58対31で前半を終える。

後半に入った第3ピリオド、日本は激しいディフェンスによって相手のミスを誘ったが 単発なプレーで得点が止まり6分間で2点という貧攻となった。しかし第4ピリオドには 早い展開のオフェンスから得点し、相手の追い上げを許す隙を与えず、35点差でカザフ スタンを圧倒した。

10月28日 チャイニーズ・タイペイ戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本	22	20	16	11	69
チャイニース゛・タイへ゜イ	13	11	13	20	57

2週間前に開催された東アジア競技大会において、61対67で敗れた相手だったが、 今回は厳しいディフェンスと高確率の3Pシュートによって相手を乱して快勝した。

第1ピリオドから日本は、外郭からのシュートで連続得点して主導権を奪い、厳しいディフェンスで相手のミスを誘う。その後3Pシュートが冴えて得点を量産し大きくリード、宮元はこの第1ピリオド、3Pシュート5本を含む17得点を挙げる大活躍。第2ピリオドに入ってもインサイド陣が奮闘して42対24とリードを広げて前半を終わる。

後半に入って一時日本の得点が止まったが相手も得点が伸び悩み、第3ピリオド残り1分半に3Pシュートが決まると、また流れを引き寄せリードを広げる。第4ピリオドにチャイニーズ・タイペイの猛チャージに会い、2本の3Pシュートを含む8得点を許したが、大量リードによる落ち着いたプレーで危なげなく試合を進め、12点差で勝利した。日本はこの試合全員が出場、中でも#8宮元は6本中6本の3Pシュートを含む20得点を挙げる活躍ぶり。

10月29日 韓国戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	ОТ	計
日本	24	10	15	20	9	78
韓国	20	14	13	22	2	71

2連勝中の日本は同じく2連勝の韓国と対戦、序盤から激しい攻防を繰り広げて延長戦へ突入する。延長戦では#10渡嘉敷がオフェンスリバウンドをもぎ取る大車輪の活躍で相手を制し、激戦をものにした。

第1ピリオド

韓国に先制された日本だったが#8 宮元の3 Pシュートで対抗、その後韓国に3 Pやミドルシュートを決められて一時リードされたが、日本も#8 宮元の3 Pシュート、#10 渡嘉敷のオフェンスリバウンドからの得点などで食らいつく。残り1分を切ってから#10 渡嘉敷のインサイド、#12 吉田の速攻で抜け出し2 4 対 2 0 と一歩リードする。

第2ピリオド

#10 渡嘉敷のインサイドで加点する日本だったが、3分過ぎから得点が止まり苦しい時間帯が続く。韓国もインサイド陣が奮闘するも今ひとつ得点が伸びなかった。韓国は、残り3分を切ってパワフルプレーによる加点で追いつき、34対34の同点で前半を終える。

第3ピリオド

激しい攻防の中、日本は#12 吉田の3 Pシュート、#10 渡嘉敷、#6 間宮の連続得点でリードを保つが、韓国もスクリーンプレーなどで対抗し、残り4分半には42対44と逆転される。しかし日本も#8 宮元の3 Pシュートですぐに再逆転し、49対47の1ゴールリードでこのピリオドを終える。

第4ピリオド

開始早々韓国がゴール下シュートをねじ込み逆転するも、日本は#12 吉田が鋭いドライブインから得点して入れ返し再びリードする。残り4分に3点リードした日本が、#8 宮元の3 Pシュートや#12 吉田のバスケットカウントなどで一歩抜け出して67対62とした残り1分21秒、韓国がタイムアウト。再開後韓国は連続3Pシュートで残り44秒に68対67と逆転に成功するが、残り9秒に#10渡嘉敷がファウルをもらって2本のフリースローを決め、69対69の同点とし延長戦へ突入する。

延長戦

日本は#10 渡嘉敷がインサイドで得点、続けて#8 宮元が 3 Pシュートを決めて活気づけると流れは日本へ。韓国はドライブインなどで日本のファウルを誘うがフリースローを落として得点が伸びない。逆に日本は#10 渡嘉敷がオフェンスリバウンドをもぎとる活躍と#12 吉田のドライブインなどで延長戦を 9 対 2 と制し、7 点差のリードで激闘をものにし、久しぶりに宿敵韓国を倒して予選ラウンド 3 連勝。

10月30日 インド戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本	24	19	22	16	81
インド	8	10	10	12	40

日本は第1ピリオド開始早々から粘り強いディフェンスで相手のミスを誘う一方、早い展開のオフェンスを仕掛け、4連続得点で9対0とする。その後も3Pシュート2本を含む10得点のブレークもあって一方的な試合展開とする。第2ピリオドでメンバーを入れ替えた日本は、効果的なオフェンスでワンサイドゲームとし、43対18で前半を終える。

後半に入ってもミスが続いて得点が伸びないインドに対して、日本は出場した選手がの びのびとプレーして確実に得点、大量リードとなってダブルスコアで圧勝し予選ラウンド 4連勝とした。格の違いがあるとはいえ、立ち上がりの粘り強い日本のディフェンスが相 手のミスを誘い、試合の流れをつかむきっかけとなった。

10月31日 中国戦

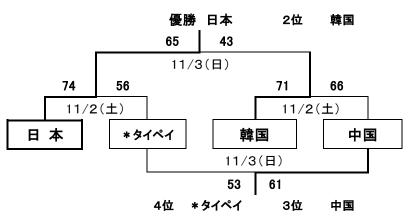
	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本	12	13	25	12	62
中 国	9	9	20	17	55

予選ラウンド最終戦、この試合に勝てば予選ラウンド1位で準決勝進出となる日本は、第1ピリオド開始早々#10渡嘉敷の得点で先制、続けて#13大神の速攻でミドルシュートを決め好スタート。一方、日本が高さで勝る中国に対して動きの良いゾーンディフェンスで相手の攻め手を封じたので、中国はボールが回らなくなる。そして#6間宮がインサイドで奮闘、#15 王もフックシュートを決めてリードし、12対9のロースコアながらこのピリオドを終わる。第2ピリオドも日本の効果的なゾーンディフェンスに中国がリズムを崩している間に、日本は早い展開で#15 王、#10渡嘉敷らのインサイドプレイで得点を伸ばす。日本はディフェンスを頑張ったこともあって終盤のファウルで、相手にフリースロー加点

されるがインサイド陣の踏ん張りがあって25対18と7点のリードで前半を終える。

後半第3ピリオド、日本は#6 間宮がインサイドで奮闘、開始3分余りには#8 宮元の速 攻が決まって流れを引き寄せると、#10 渡嘉敷、#6 間宮など連続5ゴールで突き放し一時 15点差とする。中国も終盤3Pシュートで追い上げるが、日本の攻撃が勝って50対3 8と12点のリードで終える。第4ピリオドでは中国が果敢に攻めて日本のファウルを誘 いフリースローで得点するが、日本も#10 渡嘉敷がゴール下から得点して対抗する。中盤 10点差に詰まったところで中国は最後のタイムアウトを取って追い上げを図るが、日本 も#12 吉田を起点にゲームを組み立ててリードを保つ。終盤中国のビッグセンターに連続 得点されて追い上げに遭ったが、7点差で日本が逃げ切って予選ラウンド第1位で決勝ト ーナメントへ進んだ。

<決勝トーナメントの結果>





注:「*タイペイ」は「チャイニーズ・タイペイ」

写真提供JBA

予選ラウンド上位4チームによる決勝トーナメントは、予選ラウンド1位対4位、2位対3位の組み合わせで行われ、1位の日本は4位のチャイニーズ・タイペイと対戦した。

11月2日 チャイニーズ・タイペイ戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本	24	16	12	22	74
チャイニース゛・タイへ゜イ	10	12	10	24	56

ここまで負けなしで進んできた日本は、開始早々から執拗なディフェンスで相手のミスを誘い、オフェンスでは#10渡嘉敷や#6間宮らのインサイド陣が活躍、全員出場をもってチャイニーズ・タイペイに快勝し決勝戦に進出する。

第1ピリオド

日本は#10 渡嘉敷がゴール下で先制すると、ディフェンスでボールマンにプレッシャーをかけ相手のミスを誘発する。更に#10 渡嘉敷、#6 間宮がインサイドから得点してリードを広げ24対10と好調な滑り出し。

第2ピリオド

執拗なディフェンスで相手を苦しめる日本は、#8 宮元や#13 大神が 3 Pシュートを沈め リードを伸ばす。チャイニーズ・タイペイはシュートが決まらずに後退、40対22の1 8 点差で前半を終わる。

第3ピリオド

日本は相変わらずボールマンにプレッシャーをかけるディフェンスで相手にシュートをさせない。その間#6間宮のターンシュート、#13大神の速攻などで加点していく。リードした日本は、終盤に控えメンバーを送り出すとミスが続いて得点が伸び悩み、点差を詰められる。そして相手の3Pシュート攻勢に遭ったが、52対32と20点のリードを保つ。

第4ピリオド

相手がミスを続けている間にも日本のオフェンスがバランスの良い攻めで得点し、リードを広げたところで日本は全員交代とした。すると日本は連続のターンオーバーミスを犯しリズムを崩して得点が止まる。その間チャイニーズ・タイペイは連続得点を挙げて追い上げるも届かず、結局18点差に収めて快勝した。

11月3日 韓国戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本	19	18	11	17	65
韓国	11	5	18	9	43

最終日、ここまで無敗の日本は9年ぶりに決勝戦へ進み、金メダルを賭けて宿敵韓国と対戦、立ち上がり激しい守り合いになってロースコアの展開だったが、日本は#12 吉田を起点に#10 渡嘉敷や#6 間宮が得点を挙げてリードする。後半韓国の激しいオールコートディフェンスに遭って、一時10点差まで追い上げられたもののその後持ち直して再びリードを広げ、最後は22点の差をつけて43年ぶり2回目の優勝を勝ち取った。

第1ピリオド

お互いの守り合いでロースコアの展開となったが、日本は#10 渡嘉敷が激しいディフェンスに耐えインサイドで奮闘して得点する。韓国は日本のディフェンスの前にシュートがなかなか決まらず、開始から6分間で3Pシュート1本のみの得点、しかし残り4分から連続ミドルシュートを決め9対9の同点とする。日本は終盤#10 渡嘉敷のインサイド、#8 宮元の3Pシュート、#12 吉田のバスケットカウントと4連続得点し19対11と8点をリードしてこのピリオドを終わる。

第2ピリオド

開始早々日本は#10 渡嘉敷がオフェンスリバウンドをとって得点すると、#6 間宮の連続得点、#12 吉田のシュート、#7 櫻木の 3 Pシュートで一気にリードを広げる。韓国は日本の執拗なディフェンスに手を焼いてシュートが乱れ、このピリオドの得点は 5 点に終わり、日本が 3 7 対 1 6 と 2 1 点のリードとする。

第3ピリオド

日本は#10 渡嘉敷、#12 吉田による4連続得点で開始4分に44対18と26点の大量 リードを奪う。この後韓国がオールコートプレスを仕掛けると、日本が続けてターンオー バーを犯し得点も止まる。その後は韓国の3Pシュートも決まって残り1分を切ったとこ ろで、44対34と10点差に詰め寄られるが、最後に#6 間宮のターンシュート、#7 櫻木のシュートが決まって48対34の14点差で最終ピリオドへ。

第4ピリオド

追い上げを図りたい韓国は一段とディフェンスを強めるが、日本は#12 吉田を起点に冷静にオフェンスを展開、#10 渡嘉敷のゴール下シュート、#6 間宮のバスケットカウントなどが決まって 5 分には 6 の対 4 3 の 1 7 点差とする。韓国最後のタイムアウト後も日本はディフェンスを緩めず相手に得点させない。最後は#8 宮元が 3 Pシュートを決めてとどめを刺す格好となり、6 5 対 4 3 の 2 2 点差をもって勝利し 4 3 年ぶり 2 回目の優勝を果たした。この試合#10 渡嘉敷は 2 0 点、#6 間宮が 1 9 点を取る気迫。

大会を終えて

冒頭でも述べた通りハヤブサジャパン女子日本代表が見事43年ぶりの優勝に輝き、私



写真提供JBA

たちバスケットボールを愛する人 たちに、明るい話題を提供してく れた。試合経過をみてもわかるよ うにその勝因の一つにディフェン スの強化があるといえよう。平均 身長が小さい日本がとった厳しい ディフェンス作戦が功を奏し、#10 渡嘉敷、#6間宮らのインサイドで の奮闘、#8宮元の3Pシュートと ポイントガード#12吉田の好リー ドが光る。

この大会で#10渡嘉敷選手は、7試合で120得点(試合平均17点)、62リバウンド(試合平均8.9本)を取る大活躍で大会MVPに選出された。

選手の能力を最大限に引き出し、交替してコートに入った選手も十分に活躍するチームにまとめた内海ヘッドコーチの手腕にも心から敬意を表したい。

そして、今回のアジア制覇によって次のリオデジャネイロ・オリンピック出場も視野に入れられるようになった功績に対して大いに称賛したい。



写真提供JBA

人物抄

関口 荘次 さん



関口さんは、大正12年(1923)8月、埼玉県秩父のお生まれで今年90 歳を迎えられ、お元気である。秩父の小学校から青山師範学校(現学芸大 学)へ進まれ、そこでバスケットボールを始められた。青山師範学校から 東京高等師範学校へ進学したころ戦争が激しくなり、2年生の時いわゆ る学徒動員で軍隊へ入られた。終戦後、東京文理科大学(以降文理大、 現筑波大学)に編入されたが、敗戦の焦土のなかでいち早く関東大学連 盟設立のため尽力された。同時に文理大バスケットボール部選手として 大活躍し、関東大学リーグで3年連続優勝するとともに、インカレでも

優勝、更には全日本選手権大会で準優勝している。たまたま金沢市に文理大の先輩がいた こともあって当地で大学の合宿を行ったとき、能登半島バスケット村といわれる栗ノ保村 ヘコーチにでかけ、そこのチームと試合を行ったことはプラザ50号にて報道済である。

また、昭和25年(1950)に開催された戦後初の国際試合であ るハワイAJAとの試合に全日本代表選手として出場した。

しかしながら、文理大卒業後たまたま受けた健康診断のレン トゲン検査で肺に異常があることが判明してバスケットの選手 を続けることができなくなり、ならばとコーチの勉強を始めた という。

文理大卒業後の昭和25年埼玉県浦和第一女子高(以降浦和 一女) に教諭として就任されたが、実は卒業前から浦和一女の コーチをしていたそうである。関口さんが指導し始めてから浦 和一女はみるみる強化され、昭和23年(1948)にインターハイ



ハワイと対戦したとき

優勝と福岡国体優勝で二冠を制し、以後昭和35年(1960)までの間インターハイ優勝8回、 国体優勝9回に加え、全日本総合選手権でも高校として歴史的にも唯一の優勝を果たして

浦和一女の監督を務められるかたわら、母校の東京教育大学(現筑波大学)のコーチも 務められ、同大監督の吉井さんとともに学生界NO1の成績を挙げられている。

その頃、縁あって拓殖大学をも指導することになり、拓殖大学の助教授に就任、バスケ ット部部長としても活躍されている。拓殖大学では教育大学卒業の森下氏を同大学のコー チとして招聘し拓殖大学バスケット部の発展に寄与された。

一方国体に向けて女子一般の部を強化したかった埼玉県は、実業団に所属していた日本 通運を強化することとなり、関口さんはその手腕を期待されて日本通運の監督として招聘 された。当然のことながら浦和一女で活躍していた主力選手は揃って日本通運に入り、日 本通運は強化3年にして日本リーグへ進出する。

女子日本リーグでは当時、東芝、日紡、三井、勧銀、興銀、三菱などといった強豪チー ムがひしめいていて激戦を展開、新規参入の日本通運が上位に食い込むのは大変だったそ うだ。

日本通運のコーチングを後輩の箱崎氏に引き継いだ関口さんは、関東実業団に所属していた日立那珂チームを指導していた東京教育大学OBの高橋氏から要請を受け、今度は日立那珂チームの技術指導をすることになり、監督として毎週何回か日立那珂へ通われたが、その甲斐あって日立那珂チームもまもなく日本リーグ2部へ昇格した。

こうして若い時から技術畑を歩いてきた関口さんだが、一方でバスケットボール界発展 のため組織的にも尽力されている。すなわち関東学連理事長、全日本学連理事、日本協会 理事、日本体育協会委員などを務められ、日本代表チームの強化コーチも数多く引き受け られている。

関口さんは日本協会が発行していた「籠球」後に「バスケットボール」という機関誌によくご自分の技術論を投稿し掲載されていた。常にバスケットの技術向上を研究し、それを惜しみなく公表し、日本のバスケット技術の向上に尽くされていた。

その中でも一番印象に残ったのが浦和一女を指導していたころのことだそうである。指導を始めたころは、小さい選手しかおらず、練習をする環境も劣悪でゴールリングもコートの片側に1個しかなかったという。したがって練習時間も思うように確保できなかったので、日常生活の中で足腰の強化を図るためいろいろ工夫をしたそうである。フットワークをしながら通学したり、電車の中でもつま先立ちしているとか、日常生活の中でも常に足腰の強化を心掛けたと振り返る。

終戦直後の8月15日、関口さんの誕生日に赤飯でも炊こうかという話が出たそうだが、 いくらなんでも敗戦の日に赤飯でお祝いするのは気が引けると、それをやめたエピソード があるといって苦笑する関口さん。

今年の夏、卒寿(90歳)を迎えられた関口さんをお祝いしようと、浦和一女全盛期時代の教え子たちが多数集まったそうである。

関口さんはその席でも昔携わったバスケットのことをよく話されて楽しそうだったそうである。生涯バスケットを貫かれている関口さんのご自宅には、栄光を証するカップ、トロフィー、メダルなどがぎっしり並んだサイドボードが光っていた。





京都バスケットボール100年

藤野 英雄

来年は京都の地にバスケットボールという競技が入ってきて100年になるという。も 5100年も経つというか、まだ100年しか経っていないというかはともかく、100年の歴史を持つのは確かなことである。

1915 年にアメリカのウイスコンシン大学に留学中の佐藤金一氏がプレーヤーとして活躍し、帰国してから京都第一中学の英語教師をするかたわら、仲間を集めて本格的なバスケットボールの普及を図ろうとした。それが京都市の三条通り柳馬場の京都YMCAで、京都のバスケットボールの幕開けとなる。2014年はそれから丁度100年目となることから、京都協会は「京都バスケットボール100年」の懇話会を立ち上げ、記念碑の建立、記念誌発行等の事業を計画し、小生も懇話会委員の一端に携わっている。

この100年間にバスケットボールの技術は確実に進歩し、日本国内至る所でバスケットボールが発展し、世界の国々と競技ができるようになった。各学校の体育館には必ずといってよいほどバスケットボールのゴールが設備されていて、学校の部活でバスケットボールのクラブは他のスポーツに比して多い方ではないだろうか。

しかし日頃接する新聞、TVなどのメディアの中でバスケットボールに出会う機会は非常に少ない。いわゆるスポーツの中でもなじみが薄い。目につかない。耳にしない。残念ながらあまり世間的に知られていないのである。

何故なのか、オリンピックでは日本のバスケットボールチームが話題になったり、お目にかかることがない。日本でワールドカップが開催されていても、あまり知られていない。プロリーグのニュースも話題にならない。100年もの歴史がありながら、一般国民の中にあまり知られていないのである。プロ野球、プロサッカー、プロゴルフ等に比べ、バスケットボールの選手の名前はあまり聞くことがない。

仮にスポーツに日頃接することのない人たちに、いろいろなスポーツで扱うボールを見せて、それぞれの競技名をあてることがどれほどできるか。何とかなじみがあるのは野球かサッカーかゴルフか、バスケットボールもわかって欲しいと思うがどうだろう。

日本のバスケットボールが強くなるには、もっと多くの子供たちがバスケットボールになじんで、バスケットボールをスポーツとして楽しみ、盛んにしなければならない。

最近ある指導者から聞いた話だが、ミニバスの小学生が減少しつつあるという。チーム数は多いのだが選手の数は少なくなっているそうだ。また一般の指導者が少なくなっているともいう。バスケットボールは体育館とバスケットゴールの設備がなければできないと考えるからで、もっと手軽にできる方法はないだろうか。

更にバスケットボールはルールが難しくて分かりにくいという話も聞く。もっと簡単なルールでできるようにならないか。最近は一人で遊ぶゲームなどがはやるご時世である。 スポーツも少人数で競うのがはやる傾向に向かいつつある。バレーもサッカーもラグビー も少人数でやる競技ができている。

バスケットボールも1チーム3人の3ON3、更に1ON1の競技ももっと普及に努めればよい。試合時間も短くし、ルールも簡単にする。とにかく手軽に楽しめるバスケットボールを広めていくのはどうか。

どんな競技でも勿論頂点をきわめる努力は必要で、無茶な話だと一笑される人には申し 訳ないが、とにかくバスケットボールを身近に感じるようにして、やるバスケットボール +観るバスケットボール人口を増やしていく努力は欠かせない。

伝来100年という節目を迎えて、バスケットボールが我が国でもっと元気になり、国 民が身近に接するスポーツとして生きていけるように、バスケットボールを愛する仲間が 何とか知恵をしぼって努力を重ねていくしかないのではなかろうか。

京都バスケットボール100年を迎えて、若い世代の人たちに是非ともこの思いを伝えていきたいと思うのである。

[京都協会名誉顧問]







「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして

常に完璧な製品づくりを目指しています。

株式会社 - 東京都墨田区横川五丁目5-7

www.molten.co.jp

DUPER®



WE ARE A SPECIALIST IN BASKETBALL GOODS.

DUPER FIVE CO., LTD.
3-5,TATEKAWA 3-CHOME,SUMIDA-KU,TOKYO 130-0023 JAPAN
TEL.TOKYO 03(3632)7045 FAX.TOKYO03(3632)8327
URL:http://www.duper.co.jp E-mail:info@duper.co.jp